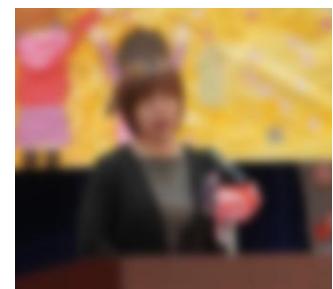


学校と家庭と地域をつなぐ
稚内中央小学校 学校だより学校HP
QRコード

中央小だより



新入生のみなさん 中央小学校へようこそ



雪解けの水が「お待たせしました」と言わんばかりに音を立てて流れ出す今日この頃、ふきのとうがそっと顔を出し、鹿の忘れ物や足跡が春の訪れを静かに知らせてくれます。そんな希望に満ちた季節に、本校は地域の皆様の温かいご支援により、節目となる六十年目を迎えています。四月八日には、第六十回目の入学式を晴れて挙行することができ、二十名の新一年生が大きなランセルを背負つて校門をくぐってきました。少し緊張した面持ちではありましたが、元氣いっぱいのお返事に、私たち教職員は自然と笑顔に。愛らしさと頼もしさに心が温まり、これから成長への大きな期待を抱きました。

また、進級した子どもたちも、新しい教室、先生、そして後輩の存在がモチベーションになっているのか、より引き締まつた表情を見せていました。春の息吹に背中を押されながら、教職員一同も気持ちを新たに、力を合わせて新年度をスタートしています。

私事となりますが、私自身も今年は学校と同じ年、一つの節目を迎えます。同時に我が子も義務教育を終える年となります。こうして公私ともに教育に長く関わってきた中で改めて感じるのは、『学校』という場の尊さです。先生に導かれ、仲間と共に学び、過ごす日々の中で、子どもたちは大きく育ちます。

一方、我が家が特別かもしませんが、家庭での子育てには難しさを感じます。親がどんなに思いを込めて「こうするといいよ」と伝えてもなかなか響かない。つい甘くなってしまうし、子どもが甘えてくる。でもそれが親子という関係なのだと思います。だからこそ、学校の先生や地域の皆様といった“家族以外の大人”的存在がとても大きいのです。そうした他者からのひと言は、不思議なくらい素直に心に届き、行動が変わる——そんな場面を、何度も目にしてきました。子どもたちは、夢や希望に向かって、まっすぐに突き進んでほしい。そのためにも、私たち大人がそれぞれの立場で声をかけ、見守り、支えることが大切なのだと思います。

また、伸び続ける人の共通点は、「人の話を聞く力」があること。自分の考えだけで動くのではなく、他者から伸び続ける姿勢を持つことが、未来への大きな力になります。そうした力も、学校や地域、社会との関わりの中で育まれていいくのではないでしょうか。子育ては、家庭だけで完結するものではなく、学校や地域の力が加わることで、子どもたちの可能性は何倍にも広がります。それの立場からかける言葉や励ましが、子どもたちにとっての大きな支えとなっていました。我が家を通して実感と感謝を覚えていきます。

子どもたちは、地域の宝物です。その子どもたちが夢を持ち、成長し、未来へと羽ばたいていく姿を見守ることは、私たち大人にとって何よりの喜びです。中央小学校 開校六十周年という節目の年にあたり、稚内市の「子育て運動」の理念を胸に、北地区が一丸となって子どもたちの今と未来を支えていけることを心から願っています。

校長 川原 修子



春の訪れと共に、四月八日（火）、第六十回稚内中央小学校入学式を挙行しました。来賓の皆様、保護者の皆様と在校生の拍手に包まれながら体育館へ入場してきた一年生の表情は、これからの中学校での楽しい毎日に胸をふくらませ、キラキラと輝いていました。元気いっぱいのお返事をした新入生二十名は、大変立派でした。

翌週には校内探検や初めての給食など少しづつ学校に慣れる取組を行い、上級生のお兄さん・お姉さんによる「一年生と仲良くなろう週間」で、いろいろな遊びを通して学校や集団行動のルールを学ぶことになりました。

今後も、新入生・在校生の成長を全職員でサポートして参ります。

本年度も保護者の皆様、地域の皆様の本校教育活動への変わらぬご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

